

東京2020大会におけるコロナ対策の検討経緯

- 2020年9月4日「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」第1回を開催
その後、2021年4月まで計7回開催
2020年12月2日 コロナ対策調整会議 中間整理
- 2月3日～ プレイブック第1版の公表
- 3月20日 五者協議 海外観客の日本への受入れ断念
- 4月28日～ プレイブック第2版の公表
- 4月30日「東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策のための専門家ラウンドテーブル」第1回を開催
その後、2021年9月まで計5回開催
- 6月15日～ プレイブック第3版の公表
- 6月21日 五者協議
観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、
7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意
- 7月8日 五者協議 オリンピック無観客の決定
- 8月16日 四者協議 パラリンピック無観客の決定
(学校連携観戦を除く)

第1回 コロナ対策調整会議



第1回 専門家ラウンドテーブル



プレイブック第二版公表



プレイブックの策定と活用

- IOC、IPCとともに、専門家の意見を踏まえ、東京2020大会において参加者が遵守すべきコロナ対策上のルールを取りまとめたプレイブックを関係者毎に作成、公表。
 - 第1版：2021年2月公表（2/3～3/16）
2020年12月の新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理を基に、WHOや第三者の専門家・機関からの助言、世界の国際的なスポーツイベントからの学びを参考に、行程ごとに行うべき基本原則や、枠組みを記載。
 - 第2版：4月公表（4/28～5/10）
第一版をより詳細化。特に、選手・関係者の検査頻度（原則毎日検査等）やCLOの役割等の詳細を記載。
 - 第3版：6月公表（6/15～6/22）
行動管理ルールを強化、検査頻度・プロセスを具体化、ルール違反に対する制裁措置を明確化。また、出国前に必要な陰性証明の要件等、プレイブック第二版以降の課題に対応。
- 各関係者とのコミュニケーション
各組織と個別のコミュニケーションのほか、プレイブック更新の都度、各関係者に対し説明会を開催し、必要情報を共有、説明。大会の安全安心・ルールの遵守に向けた理解を形成した。
- プレイブック遵守にあたり、IOC/IPC と協議、迅速に処分決定し、嚴重注意、アクレディの一時停止、剥奪の対応を行なった。



プレイブックの概要

【目的】

- 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備と、日本国民の安全・安心の両立

【具体的な方策】

- 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備
 - － 検査（入国前に2回検査、選手は原則毎日検査、他SHは選手との接触程度に応じ定期検査）
 - － コロナ対策責任者（CLO）の職責やトレーニング等を明確化
 - － 万一、陽性となった場合の手順の明示 など
- 入国後14日以内の海外SHと日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保
 - － 公共交通機関の原則不使用。移動は大会専用車両のみだが、大会専用車両が利用できない場合は、TCTサービスを利用。
 - － 自己手配宿泊施設の「宿泊ガイドライン」への適合。満たせない場合は、組織委手配ホテルへ変更。 など
- その他大会参加に当たっての具体的な条件を明確化
 - － 大会期（7/1以降）、大会参加者は、入国後3日間の検査結果が毎日陰性であること、かつ受入責任者によるより厳格な監督が行われることにより、入国初日から活動できることを明確化
 - － 入国に当たって求められる書面一式の明確化
 - － 本邦活動計画書のフォーマットや提出時期の明確化
 - － ルール違反に対する制裁措置を明確化
 - － 選手村や競技会場における具体的コロナ対策の明示
 - － その他衛生基準の明確化（マスクの常時着用、食事の際のルール等） など

東京2020大会のコロナ対策の取組

選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備

海外からの
入国者数の縮小

- 大会運営の簡素化とともに来日大会関係者数を延期前の計画からオリンピック時は4分の1、パラリンピック時は3分の1に縮小

水際対策・検査

- 入国前に2回検査
- 選手は原則毎日検査、他の関係者は役割に応じ定期的に検査

行動管理・健康管理

- 厳格な用務先の制限、行動管理、健康管理

基本的な感染対策

- マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底などにより、選手村や競技会場における感染拡大の防止

日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保

移動手段

- 公共交通機関の原則不使用。移動は原則として大会専用車両

宿 泊

- 自己手配宿泊施設の「宿泊ガイドライン」への適合
- 満たせない場合は、組織委員会手配ホテルへ変更

大会による直接的影響：来日大会関係者の感染状況

		大会前の試算	実績
アスリート・大会関係者の陽性状況	空港検疫検査 (7/1~9/8)	大会前の陽性率想定：0.2%	陽性率：0.10% 55人(陽性者数)/54,250件(検査数)
	スクリーニング検査 (7/1~9/8)	繁華街等のスクリーニング陽性率：0.1%※	陽性率：0.03% 304人(陽性者数)/1,014,170件(検査数)
アスリート・大会関係者の療養状況	都内医療機関(入院)	大会前の想定(ピーク時)：8.5人	入院者数(ピーク時)：2人 (重症者：0人) (訪日大会関係者) ※ 大会指定病院へ入院
	都内宿泊療養施設	大会前の想定(ピーク時)：44.6人	入所者数(ピーク時)：49人 (訪日大会関係者) ※ 大会用に組織委が300室を準備 余剰の部屋は都民に活用

※ 東京都戦略的検査強化事業（繁華街、飲食店、駅前等のスクリーニング検査事業）における4/1~7/25までの陽性率

- 保健所によりクラスターとされた事例はなく、大会関係者等から市中に感染が広がったという事例も報告されていない。
- 陽性者の早期把握、迅速な隔離、組織委員会が確保した宿泊療養施設の活用などにより、地域医療への影響の抑制を図った。

来日大会関係者の感染状況（補足）

【大会関係者の入院者数（ピーク時・訪日大会関係者）】

- ・地域医療への影響を分析する観点から、大会関係者のうち国内在住者を除く海外からの訪日者がどれだけ入院したかに着目して試算するとともに実績を把握した。
- ・専門家ラウンドテーブルにおいて、検査陽性者数等とともに報告し、クラスターの発生や訪日大会関係者から広がったことはなかったとの評価をいただいた。

	大会前の試算	実績
都内のピーク時	8.5人	2人
全国のピーク時	－	2人

【大会関係者の入院者数（ピーク時・国内在住者を含む）】

- ・上記に加え、大会関係者の感染状況の全体像をフォローアップする観点から、国内在住を含めた選手・関係者・スタッフの罹患や療養の状況を把握した。
- ・国内在住者数が多くなっており、国内の感染状況等も踏まえ、役割に応じた定期的な検査、行動・健康管理、陽性判明時の迅速な療養・隔離等を行った。
- ・そのため、地域医療への影響の分析とは、集計の目的も対象も別のものである。

	入院者数（うち国内在住者）
都内のピーク時	6人（※4～5人）
全国のピーク時	11人（9人）

※都内のピークは複数日あり、そのうち国内在住者の人数は4人の日と5人の日とがある。

間接的影響：大会の人流等への影響

■ 競技会場周辺、道路・鉄道の混雑箇所等の人流は、交通需要マネジメントの推奨やテレワークの呼びかけで減少

- ・ 交通需要マネジメントの重点取組地区では、平日の14時台で8～11%減、休日の14時台で9%減
- ・ 大会期間中の鉄道利用者数は、大会前から1～2割程度減

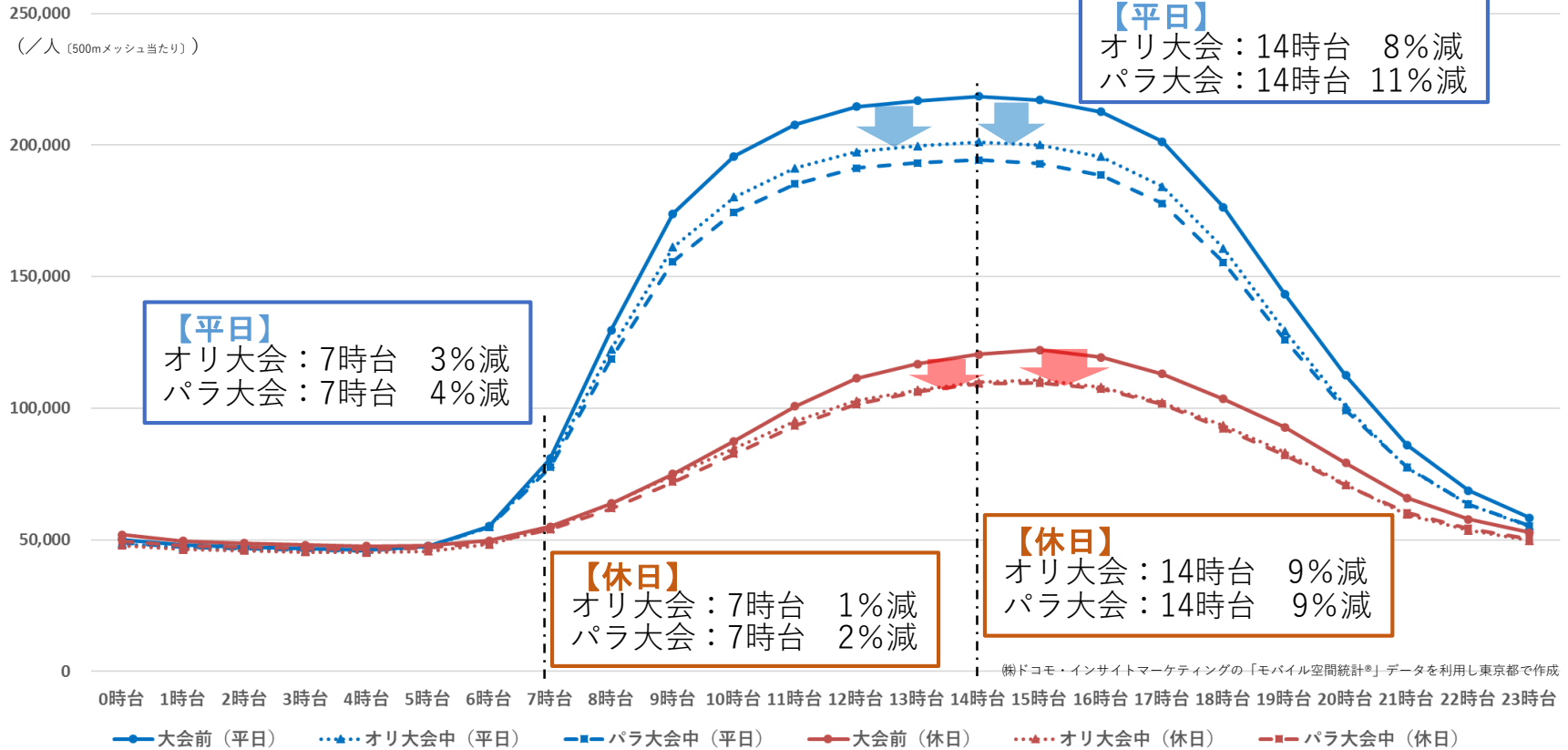
■ ステイホーム観戦の呼びかけ等により、開閉会式等の時間帯の人流は減少傾向

- ・ 開閉会式等時間帯の主要繁華街等の人流は減少傾向
- ・ 同時帯のテレビ視聴率や水道使用状況から、在宅で観戦されていた方が多かったと推測

■ 実効再生産数は、7月21日をピークに下落傾向へ

間接的影響：大会期間中の人流の推移 (重点取組地区)

- 競技会場等が集中し、道路・鉄道の混雑箇所を通過する交通が多い重点取組地区において、**昼間の滞在人口が減少** (携帯電話の位置情報をもとに算出)



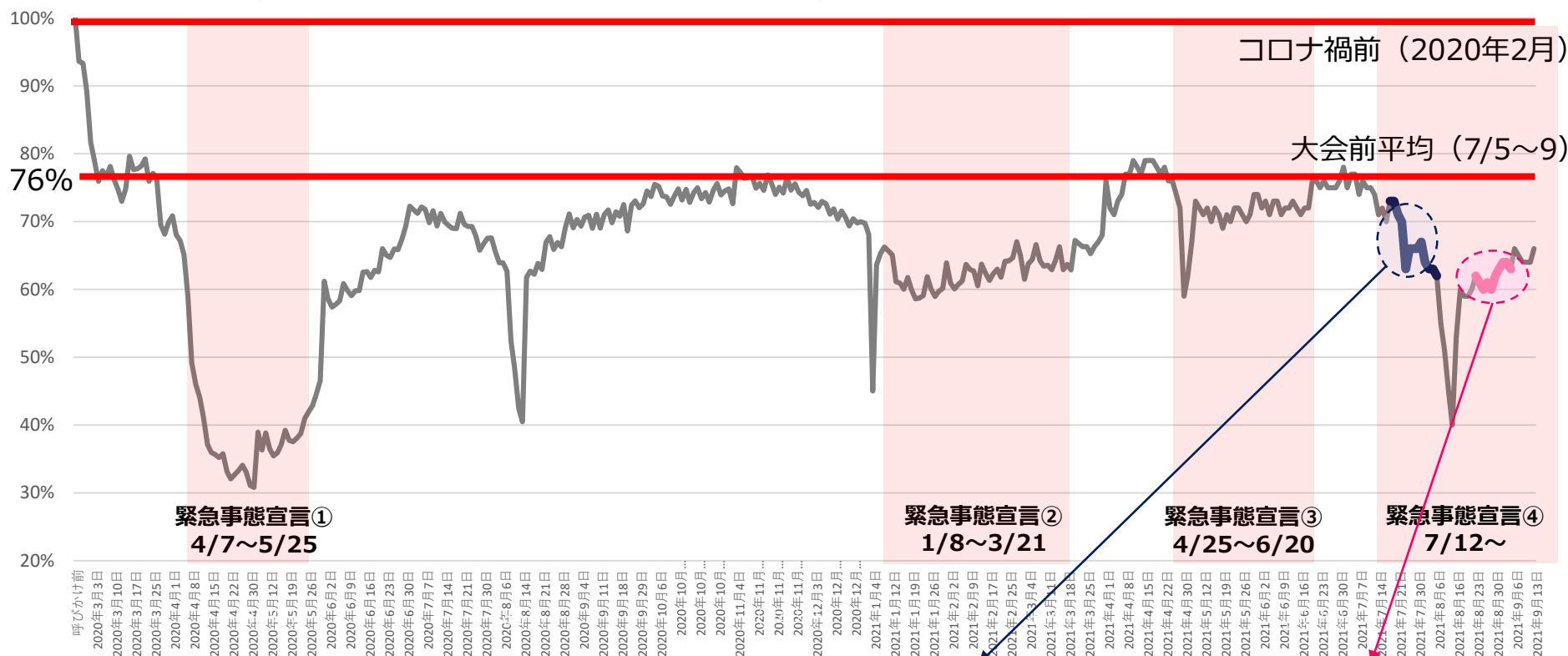
※ 大会前(平日)：7/5～7/9 オリ大会中(平日)：7/26～7/30・8/2～6 パラ大会中(平日)：8/24～8/27、8/30～9/3
大会前(休日)：7/3・4、7/10・11 オリ大会中(休日)：7/23～25、7/31・8/1、8/7・8 パラ大会中(休日)：8/28・29、9/4・5

≪重点取組地区≫

①新宿 ②渋谷 ③品川 ④浜松町・田町 ⑤新橋・汐留 ⑥大手町・丸の内・有楽町 ⑦八重洲・日本橋 ⑧神田・秋葉原・御茶ノ水 ⑨九段下・飯田橋
⑩番町・麴町 ⑪青山・表参道 ⑫赤坂・六本木 ⑬霞ヶ関・虎ノ門 ⑭晴海・有明・台場・豊洲・大井ふ頭 ⑮池袋 ⑯大崎

間接的影響：大会期間中の鉄道利用者数の推移

➤ 大会期間中、コロナ禍前から3～4割程度減少、大会前から1～2割程度減で推移

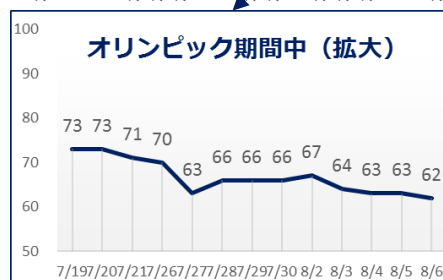


出典：国土交通省鉄道局データより集計

※首都圏の主なターミナル駅における平日ピーク時間帯の自動改札出場者対象とした駅は

東京・新宿・渋谷・品川・池袋・高田馬場・大手町・北千住・押上・日暮里・町田・横浜

※なお、公共交通マネジメントの「輸送力の確保」については、大会に向けて『東京2020大会期間中の鉄道運行（臨時列車の運行等）について』を6月30日に公表したが、無観客となった東京圏等は、とりやめた。

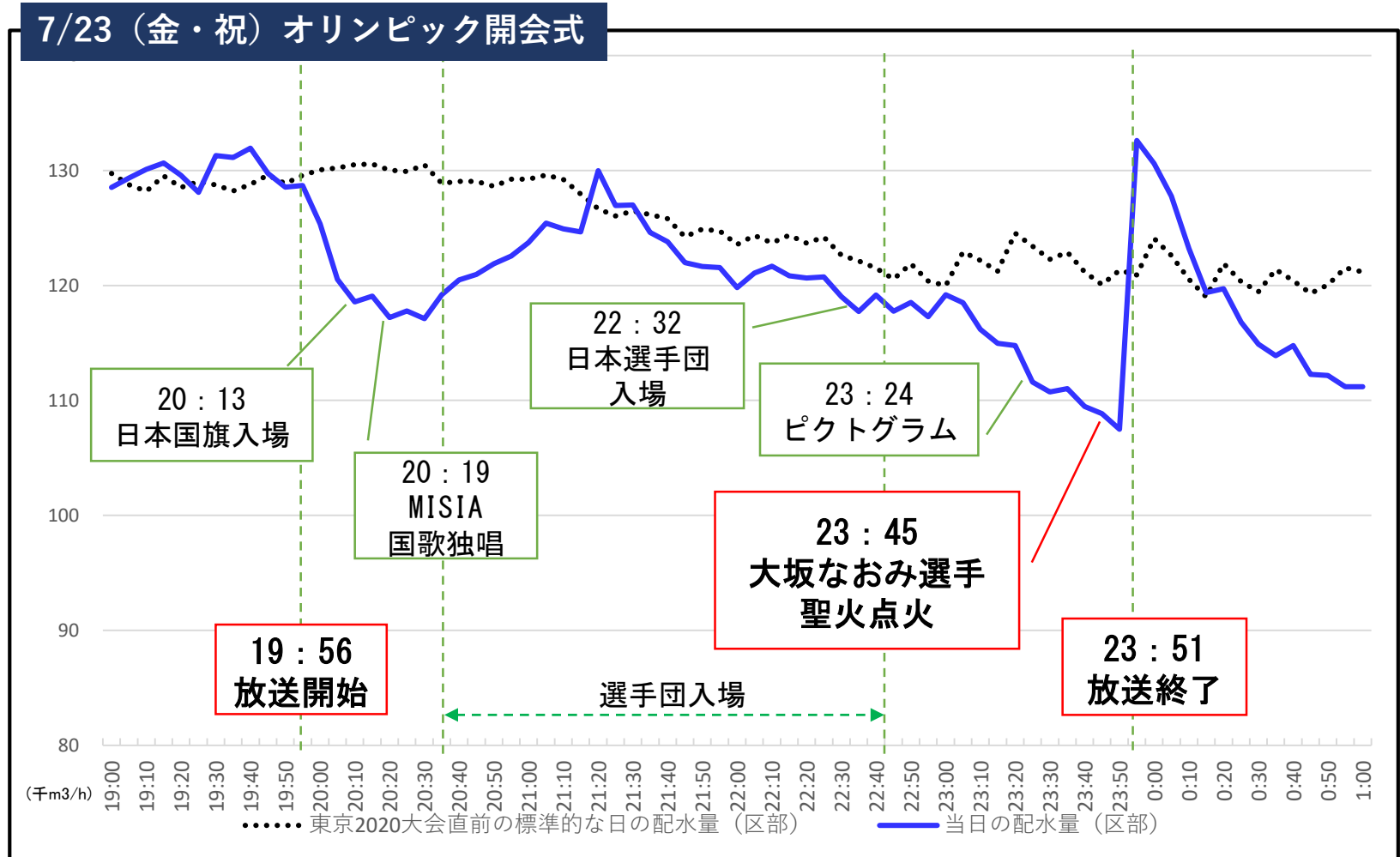


間接的影響：開閉会式・各種競技時間帯の人流

日程・競技 ※ 時間は視聴率の最も高い時間帯	視聴率	人流（大会前（7月）の直近同曜日同時間帯）【視聴率24%以上】				
		新宿駅	渋谷駅	東京駅	歌舞伎町	銀座
7/23（金）20:00～ オリンピック開会式	56.4% (NHK)	29.5%減 (13.5%減)	37.5%減 (16.4%減)	63.0%減 (5.3%減)	16.5%減 (19.2%減)	54.1%減 (27.3%減)
7/24（土）19:00～ 柔道男子60キロ級決勝等	24.2% (NHK)	17.5%減	14.7%減	4.7%減	3.5%減	24.5%減
7/26（月）22:00～ 卓球 混合ダブルス決勝等	24.6% (フジ)	2.3%減	11.5%減	4.3%増	8.3%増	0.9%減
7/31（土）20:00～ サッカー男子準々決勝 ニュージーランド戦	26.9% (NHK)	11.2%減	9.0%減	6.1%減	5.2%増	10.2%減
8/3（火）20:00～ サッカー男子準決勝 スペイン戦	30.8% (日テレ)	9.4%減	7.7%減	10.9%減	15.2%増	16.2%減
8/4（水）21:00～ 野球準決勝 韓国戦	26.2% (NHK)	4.3%減	0.8%増	7.8%減	6.9%増	5.4%減
8/5（木）20:00～ 卓球女子団体決勝 中国戦	26.3% (NHK)	7.7%減	10.8%減	17.9%減	3.3%減	7.8%減
8/7（土）21:00～ 野球決勝 アメリカ戦	37.0% (NHK)	26.1%減	12.3%減	10.1%減	15.5%減	13.7%減
8/8（日）8:00～ 男子マラソン	31.4% (NHK)	27.5%減	18.7%減	6.7%増	14.0%減	24.6%減
8/8（日）20:00～ オリンピック閉会式	46.7% (NHK)	19.7%減	0.9%減	12.2%減	7.3%増	18.1%減
（参考）8/24（火）20:00～ パラリンピック開会式	23.8% (NHK)	12.8%減	9.3%減	16.6%減	22.9%増	19.2%減
（参考）9/5（日）20:00～ パラリンピック閉会式	20.6% (NHK)	18.0%減	2.1%減	11.1%減	9.5%減	15.1%減

間接的影響：大会時の上水道の配水量の推移

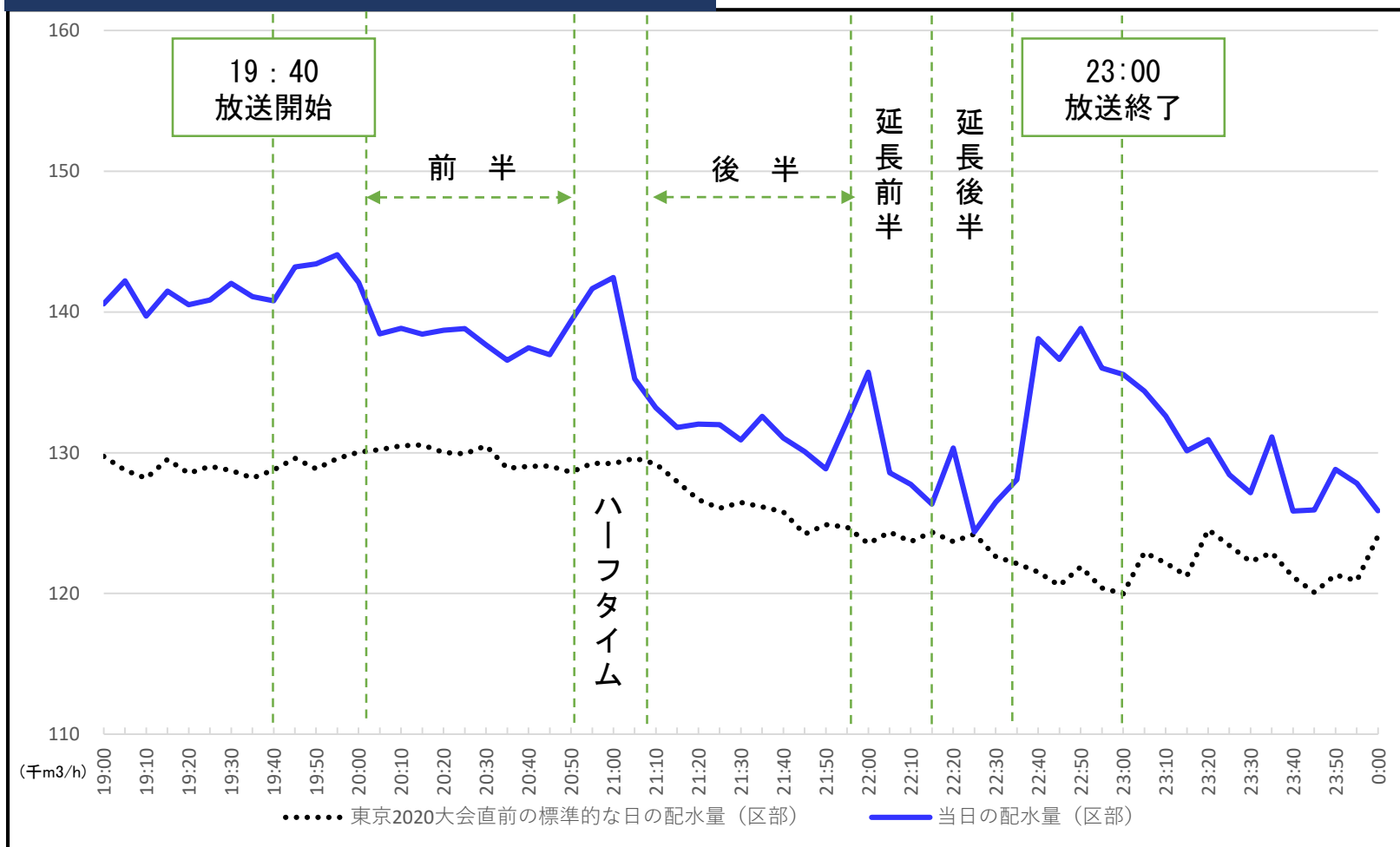
- 上水道使用量の約7割は家庭で使用されており、開会式などでの配水量の推移から在宅での視聴状況を推測



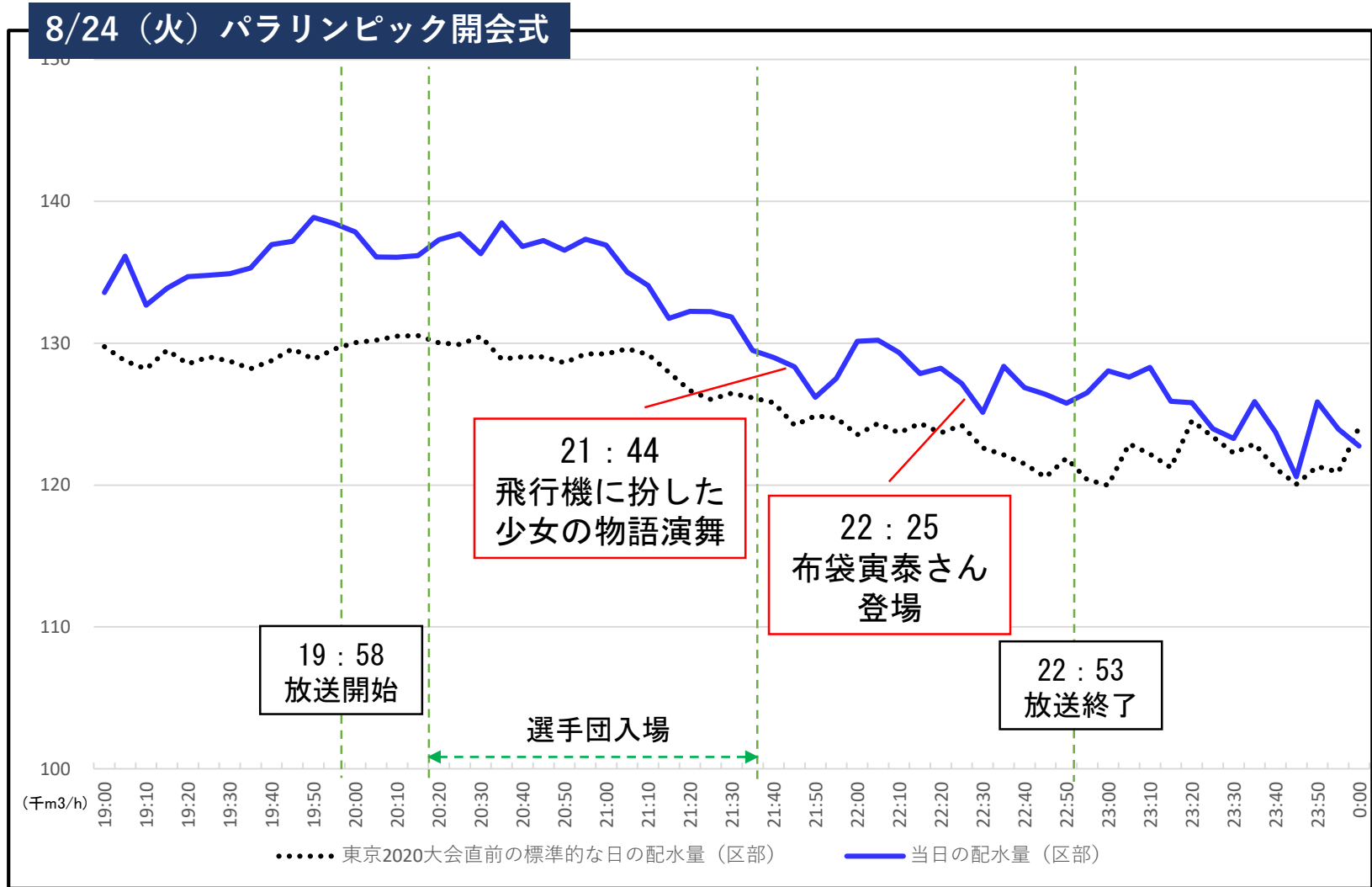
※東京都水道局ホームページより

間接的影響：大会時の上水道の配水量の推移

8/3 (火) サッカー男子準決勝 スペイン戦



間接的影響：大会時の上水道の配水量の推移



➤ 多くの方が在宅で視聴していたことが配水量の変化に表れたと推測される。

実効再生産数の推移

東京の実効再生産数は7月21日をピークに下落傾向へ

東京都



実効再生産数の推移 (厚生労働省アドバイザリーボード (9月16日会議資料) より)

東京2020大会のコロナ対策の取組結果：まとめ

- コロナ禍における安全・安心な大会を実現するため、マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底に加え、海外入国者数の絞込み、入国前の2回の検査および入国後の定期的な検査の実施、厳格な用務先制限／行動管理、健康管理、陽性者が確認された場合の迅速な隔離等により、海外からの感染の持込を抑制し、選手村や競技会場における感染拡大を防止した。
- これらの総合的な対策を講じたことにより、大会参加者の陽性率は、空港検疫0.10%・スクリーニング検査0.03%に留まり、選手村や会場でのクラスターの発生もなく、専門家からも「大会は安全に行われた」「行動管理や検査などの対策がうまく機能した」との評価をいただいた。
- さらに、大会に伴う人流を抑制するため、交通需要マネジメントの推進、ライブサイト等の中止・デジタル配信への転換、多くの会場で無観客開催としてステイホーム観戦を呼び掛けたことなどにより、人流の抑制が図られた。
- なお、推定感染日ベースでの実効再生産数は、7月21日をピークに大会期間中は低下し続けている。
- 大会中の様々な取組は、全体として有効に機能